



## 九州支部「第22回日本生物工学会 九州支部宮崎大会」報告

第22回日本生物工学会九州支部宮崎大会を2015年12月5日（土）、宮崎大学農学部講義棟（木花キャンパス）にて開催いたしました。宮崎での開催は、1995年度、2003年度に続いて3回目になります。鹿児島で10月26日から27日に開催された全国大会に続いての支部大会となりましたが、大会参加者数は152名（一般56名、学生96名）に達し、講演数は68題（一般講演59題、学生賞応募講演9題）でした。10時から一般講演を3会場で、学生賞審査を1会場で行いました。どの会場でも熱心な質疑応答が行われました。学生賞は、5名の審査員によって厳正なる審査が行われました。お忙しい中、座長ならびに学生賞審査をご担当下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。昼の休憩時間には支部評議員会・役員会が開催されました。

13時10分から開催した特別講演では、最初に実行委員長太田一良（宮崎大学農学部）が「エタノール生産性大腸菌 KO11 ～その開発から実用化まで～」と題して、木質系バイオマス資源からのエタノール生産のために開発された遺伝子組換え大腸菌の開発とその生産プロセスについて紹介しました。続いて、本学会会長で東北大学大学院農学研究科教授五味勝也先生は、「麹菌のアミラーゼ生産制御に関わる転写因子研究の新展開」と題して、麹菌が生産する産業的にもっとも重要な酵素の一つであるアミラーゼの遺伝子発現制御機構に関する最新のデータまで含めて講演されました。

17時30分から恒例のミキサーが宮崎大学学生食堂で行われ、実行委員長からの挨拶に続いて、水光正仁宮崎大学理事・副学長より歓迎の挨拶、酒井謙二支部長の挨拶、続いて五味勝也会長に乾杯のご発声を頂きました。ミキサーには、多数の大会参加者が出席し、宮崎県の酒造メーカー自慢の焼酎と料理を楽しみながら、互いの情報交換や交流が深められました。このミキサーの中で、学生賞審査員を代表して井上謙吾先生（宮崎大学農学部）から講評後、学生表彰が行われました。本年度の受賞者は3名で、修士の部は江島康成さん（九大院・生資環）「担子菌由来のエンド-β-N-アセチルグルコサミニダーゼ変異体を用いた均一糖鎖含有糖タンパク質の酵素合成」と永井貴之さん（九大院・化工）「ECM模倣基材を用いた薄層ゲル培養系構築による神経毒性試験」の2名、博士の部は永吉佑子さん（九大院・生資環）「地熱環境から単離した *Thermus* 属繊維状ファージの特性解析」1名でした。酒井支部長から各受賞者に賞状と記念品の贈呈が行われ、受賞者から一言ずつコメントと今後の抱負を述べてもらいました。受賞者の皆様の更なる飛躍をお祈りします。最後に、光富 勝副支部長（佐賀大学農学部）の締めにより、ミキサーを終了しました。

2016年度は、九州工業大学情報工学部（飯塚キャンパス）で坂本順司教授を実行委員長として12月3日（土）に開催される予定です。多くの皆様のご参加を期待しております。

（太田 一良）



会場の宮崎大学木花キャンパス正門付近



ミキサー会場にて五味会長（左）、酒井支部長（右）と学生賞受賞者の面々